

令和6年度 第2回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議録（要旨）

日時：2024（令和6）年12月24日（火）10:00～11:30

場所：郡山市役所西庁舎5階 5-1-2 会議室

【出席者】

委員：初澤敏生会長、臼井一雄委員、宇埜康平委員、大滝秀雄委員、大橋真孝委員、河内勉委員、佐藤保委員、鈴木英夫委員、柳沼広人委員、柳田美華委員、吉田由美子委員、鷲谷恭子委員

（欠席：大槻礼子副会長、小林文紀委員、諸橋有紀子委員）

事務局等：鈴木産業観光部次長兼観光政策課長、齋藤産業雇用政策課長、古川産業創出課長、馬場産業雇用政策課長補佐、佐々木産業雇用政策課雇用政策室長、小島産業雇用政策課産業政策係長、高橋産業雇用政策課産業振興・輸出推進係長、浅野産業雇用政策課産業政策係主査

【傍聴者】：なし

1 開会（司会：馬場補佐）

2 会長挨拶

- ・ご多忙の中、委員の皆様にはご出席いただき感謝申し上げます。
- ・本日は来年度の産業観光部の重点施策が議題としてあるので、委員の皆様の活発な意見をお願いしたい。

3 委員紹介

- ・柳田美華委員、宇埜康平委員、大滝秀雄委員の紹介、委員から一言、挨拶。
- ・事務局提案により「郡山市附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議の公開の可否について協議し、会議を公開することに決定。

4 議事

会長が議長となり議事を進行。

(1) 令和7（2025）年度郡山市産業観光部重点施策概要について

事務局から資料1により、令和7年度の郡山市産業観光部重点施策概要について説明。また、説明に先立ち、組織改編により令和7年4月から産業観光部と農林

部が統合し農商工部になること、及び観光政策課が文化スポーツ部から改称される文化スポーツ観光部に移管される旨を報告。

(会長)

- ・ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆様からお一人ずつご意見をいただきたいと思います。

(委員)

- ・組織改編に伴って、輸出や海外展開の事業について、これまで1つの部で行っていたことが2つの部に分かれて実施することになるが、うまく連携しながら実施していただきたい。お客様や相手先は1つであり、そういったところを踏まえて、工夫しながら進めていただきたい。

(委員)

- ・資料5ページのスタートアップ支援補助金について、社会起業家タイプと一般スタートアップの対象経費や補助上限額を分けている理由は何か。社会起業家タイプを手厚くしているのは何か意味があるのか。また、社会起業家とは具体的に何か。

(事務局)

- ・今年度までは、一般スタートアップと社会起業家は分けることなく一律で行っていた。ただ、元々、社会起業家の方を育成していこうという中で、実際に今年度活用された方が、一般の飲食店や古着屋さんとか販売系のお店が非常に多かった。その場合、なかなか新たな雇用を生む効果が社会起業家に比べると小さいのではないかとということもあり、次年度については、伴走支援をさせていただいた方が実際にスタートアップする、そういった場面をより促進させていきたいという思いから、社会起業家タイプの方を手厚くしている。また、社会起業家とは、人口減少の中で、働き方改革とか、あとは環境問題とか、そういったものをビジネスで解決するというところを想定している。

(委員)

- ・事業者の方がこういった取り組みで問題を解決しますと申請し、市で認定すれば社会起業家ということなのか。

(事務局)

- ・毎年度、伴走支援をさせていただく方を募集し、その中で審査をしている。今年は15者程度ノミネートいただいて、その中の10者をサポートしているという状

況である。

(委員)

- ・社会起業家を育成する必要性は理解した。しかし、一般の事業者も育てていくということも大変大切なことだと思う。できれば、あまり差をつけずに、実施していただきたい。

(委員)

- ・資料6ページの事業承継支援補助金だが、その後の経過をフォローアップし成功事例を把握しているのか。成功した事例などを公表するのも大事ではないか。

(事務局)

- ・その後のフォローアップというところまでは行っていない。事業として継続されているのかは注視しているが、その後の引き継ぎの支援までは踏み込めていない。なお、セミナーの場などで事例を発表していただいたりはしている。

(委員)

- ・資料6ページの後継者不在企業に対する支援だが、新年度はマッチングにより力を入れていくということで結構なボリュームがあると思うが、職員で対応していくのか。また、成功事例があった場合は市としてPRしているのか。

(事務局)

- ・こちらについては、事業者への業務委託で実施する。マッチングの部分でいえば、今までノンネーム、名称とかを非公開でやっていたところを、オープンネーム、社名を公開してやっていくことも検討している。なお、フロンティアドットネットといった、創業と事業承継のサイトでPRを図っていきたい。

(委員)

- ・資料2ページの中小企業等脱炭素経営促進事業だが、中小企業向けには手段が目的化しているように見えるので、もう少し目的意識を明確にした方がよい。二酸化炭素の排出量を可視化することを、中小企業は積極的に取り組まないと考える。ビジネスによりメリットがなければならない。
- ・郡山市の戦略的なロケーションだが、やはり仙台市には負けてしまう。全国的なイベントを開こうとするとホテルがなかなか確保できない。本日、磐梯熱海温泉というキーワードがあったが、イベントを企画しようとする人が相談できる体制があると、もう少し人を呼び込みやすいと考える。また、インバウンドの誘発だが、SNSをうまく活用しながら、アピールすることが大事ではないかと考える。現在、誘客において福島県は山形県などにも負けはじめていると思うので、第三

者の方にどう発信してもらおうか、インフルエンサーを作っていくという取り組みをすれば、もう少しインバウンドが増えるのではないかと考える。

(委員)

- ・政策提言として5点提言したい。1 学校教育で行われるキャリア教育に中小企業を活用する機会の増加をお願いしたい。2 地域内経済循環のために中小企業の活用をお願いしたい。3 各種補助金、助成金制度の情報発信の拡充をお願いしたい。4 若い女性の県外流出を防ぐために、県民の意識改革を促す啓発運動を行うことをお願いしたい。5 中小企業の現状、課題、具体的な施策を議論する機会の増加をお願いしたい。
- ・市の100周年の事業について政策開発部を中心に色々行ってきたと思うが、開成山公園での花火が非常に市民に好評だったと思う。何十年かぶりに復活し、1万人以上の市民が参加したと思う。市民としては、毎年やれないのかという要望があるので、次は産業観光部で企画してはどうかと考える。市民が喜び、なおかつ、観光の振興やインバウンドにも繋がる。

(委員)

- ・予算の選択と集中をした方が良い。費用対効果が出にくい予算になっていると思われるので、ボリュームゾーンをもうちょっと広げていく必要があると考える。また、これから人口減少が進み税収が減っていくことを前提で考えると、効果が出やすいところに、積極的に投資していく必要があると考える。

(委員)

- ・私の事務所もだが、電気代がやっぱり高い。そういうこともあって、省エネ診断を行い、これから省エネに取り組もうと考えている、土日が明けて最初の日の朝が1番寒いので、朝一斉にエアコンをつけるが、その日が電気量のピークになっている。やはり省力化への投資が重要であり、イニシャルコストよりも、ランニングコストを下げ、支出を減らしていくことが大事と考える。
- ・企業の雇用対策は重要な課題であり、力を入れていただきたい。

(委員)

- ・電気代が本当に大変である。工場は高圧電気ということで、事務所の電気の消し忘れというレベルではなく、何百万円かかっている中、毎年電気会社を変えている。今年はこの電気会社にするなど1年ごとに替え、暖房もタイマーをつけて、自動的に切れるようにするなど努力している。
- ・資料2ページの中小企業等生産性向上支援事業だが、ロボットのイラストもあるが、これを買えば補助金が採用されるというスキームは分かりやすくてよい。
- ・資料の16ページの海外販路開拓事業だが、幕張で行われた販路開拓のイベント

に参加させていただいた。単独で参加した時は 20 万円から 70 万円ぐらいかかったが、今回は 10 万円ぐらいで出展できいい商談ができた。なお、大きなイベントの開催では、他のイベントと重ならないようなスケジューリングをお願いしたい。また、発酵まつりだが、発酵に目を向けていただくのは嬉しいが、資料のイラストでも酒を使用している。味噌、醤油、甘酒も発酵品なので、甘酒のイラストとかも使用していただきたい。

- 毎年 40 校から 50 校、工場の見学に来ていただいているが、シューズカバーやキャップの補助があったら助かる。年間にすると、結構金額的な負担がある。

(委員)

- 短大生から、就活がなかなかうまくいかなく、特に食や農業関係ではなかなか採用がないと聞いている。このような中、自分の会社に見学に来ていただいたが、ここで働きたいという話をいただいた。もう少し中小企業をはじめ、農業法人等にも就職できる環境を整えば、学生はもとより学校の方でも嬉しいのではないかと考える。

(委員)

- 資料 1 ページの中小企業向け専門家活用支援事業だが、商工会においては無料で事業者からの補助金申請相談を受けているが、採択された後の実績報告等まで支援するなど大変である。なお、この制度はある程度規模の大きい事業者しか使えない形になっていると思うので、商工会に依頼するような小さい事業者への支援にはなっていないので、小さい事業者への支援も考えていただきたい。
- 小さい事業者のモチベーションを上げるようなこともあっていいと考える。三春町の中小事業者等支援給付金事業などを郡山市でも検討いただきたい。

(委員)

- 資料 9 ページ、10 ページの雇用対策だが、Z 世代を対象にしており将来の人材確保に向けた重要な種まきだと感じているが、喫緊の課題である人手不足に対して即効性のある対策ではないと感じた。先日、白河市において地元で働きたいと思っている女性のイベントに参加したが、働きたい意欲があってもなかなか企業の求める状況と合わないということであった。話を聞くと時短勤務であれば働けるということであったが、企業が新しい制度を作るなどの改革が進んでいけばよいと考える。まだまだ働きたい人と企業のミスマッチがあり、お互いの意識の違いというところがうまく雇用に結びついていないと痛感した。中小企業では、正社員の採用に注力するあまり、なかなかその地域で眠っている人材の活用が十分に行われてないのではないかと。地域にいる子育て中の女性、シニア層、多様な経験とスキルを持ちながら働いていない方たちに向けた大きな取り組みというもの、喫緊の課題を解決するものとして実施していただきたい。

- ・資料 14 ページから 16 ページ、ふくしまデスティネーションキャンペーンだが、首都圏での大々的なPRができ、インバウンドの新規開拓としても大変有効なキャンペーンであると感じている。

(委員)

- ・6次化が当たり前の時代、農林部と産業観光部の統合というものは意義があるものとする。農作物を作って、それを加工して販売し、それを観光と結びつけていくのが大事であり、観光を外してしまうというのは、マイナスに働くのではないか。一方、文化・スポーツと観光を結びつけることは賛成でライブハウスを誘客に活用してもいいと考える。また、スポーツだが郡山市にもバスケットボールチームがあるが、新潟県長岡市は、アオーレ長岡といった市役所機能の入っているビルの中にアリーナがあり、その中でバスケットボールを行い誘客に活用している。様々な産業を統合してまちづくりに生かすということが、当たり前の流れになっている。
- ・磐梯熱海温泉だが、入り込み客数がかかり落ち込んでいる。内部的な問題があると思っているので、そこを解決しないと、カンフル剤を打つだけでは回復しないので、力を入れてやっていただきたい。
- ・インバウンドだが、台湾をターゲットにする気持ちはわかる。東北地方は台湾をターゲットにしているが、全国的には韓国をターゲットにしている。台湾をターゲットにしているのは東北地方と北関東地方であり、福島空港ではなく仙台空港が窓口となっているので、仙台空港を核としてどう広域観光圏を形成するのか、そのために郡山市をどう位置付けるかが重要であり、この点を視野に入れて進めていただきたい。
- ・教育旅行は、こちらが何を提供したいではなく、学校が何を求めているかを調査して、それにハマるものを提供しなければならない。これは、福島県が苦手な分野だが長野県、三重県、山口県などが進んでいるので、参考にしていきたい。
- ・フィルムコミッションだが、福島市はパンフレットなどを作って、PRしている。聖地巡礼ではないが、どんどんPRしていかないと地域経済の発展には結びつかない。
- ・食とインバウンドと結びつけるのであれば、B級グルメなどがあつたが、B級ではなく、超A級のような、いわば海外の富裕層が好む物が必要であり、それを開発していかなければならない。富裕層をいかにターゲットにしていくかを考えていただきたい。

(2)その他

(無し)

5 その他

- 初澤会長から、11月22日（金）に会津若松市で開催された、会津若松市みらい会議との意見交換会について報告。
- 事務局から、次回の会議の開催予定について説明。
- 事務局から、会議の御礼。

6 閉会